SRI BUSINESS INTELLIGENCE CONSULTING
An SRI International Business Partner

FUTURE SQUARE

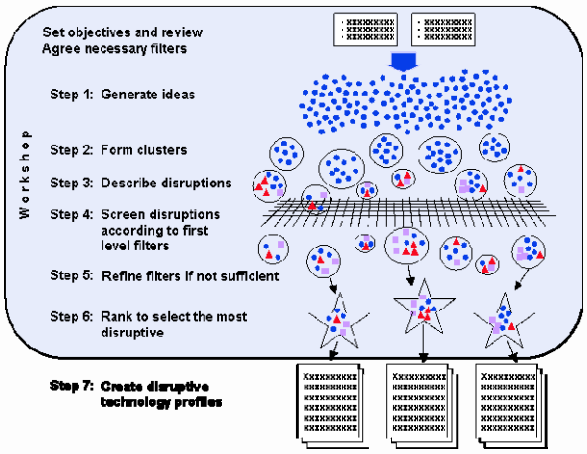
フューチャー・スクエア

〒102-0082　東京都千代田区一番町2　ﾊﾟｰｸｻｲﾄﾞﾊｳｽ3階　電話:03-3222-6501　FAX:03-3222-6508
URL: http://www.tokyo.sric-bi.com　　発行責任者:土谷庫夫

No.82　　2008.06.10

2025 年に向けた米国の戦略的重要技術群に関する提言

National Intelligence Council 委託プロジェクト速報



弊社は、米国情報活動の中枢機関の一つである National Intelligence Council (NIC:注1参照)の求めに応じて、米国政府が注視するべき重要技術領域に関して考察し、Disruptive Civil Technologies Six Technologies with Potential Impacts on US Interests out to 2025(注 2 参照)というレポートにまとめて提言を行った。このレポートは、NIC が有識者とともに 2025 年に向けた長期トレンドに関する認識を構築する一連の活動をサポートするために委託されたもので、弊社では、独自のノウハウ(左図)を用いて6つの領域を特定した。

プロジェクトでは、まず数多くの潜在的重要技術群を抽出し、専門家によるブレインストームの場でクラスター化することによって基本的なリストの作成を行った。その後、技術以外の外的要因に関する背景的知見も豊富に有するグループによって調査、分析され、段階的な優先順位付けなど幾つかの合意形成を重ねながら結果をまとめた。以下がそのトピックの一覧である。

- Biogerontechnology(バイオゲロン技術:加齢に関係する生物学的学問領域)
- Energy Storage Materials(エネルギー蓄積素材)
- Biofuels and Bio-Based Chemicals(バイオ燃料とバイオベース化学)
- Clean Coal Technologies(クリーン・コール)
- Service Robotics(サービス・ロボット技術)
- The Internet of Things.(モノのインターネット)

ご覧頂けばすぐにお気づきになると思うが、ここで重要なのは、これらの技術群が必ずしも一般的に他の国家や企業の最重要技術と同一ではないということである。組織には、必ずその組織固有の戦略的ポジションがあり、そのポジションを維持、向上させるために採るべき戦略には自ずと相違がある。それゆえ良い成果を得るプロジェクト運営のためには、発注者側にも明確な戦略的課題認識が求められる。幸い、今回は米国政府より軍事、経済、地政学、文化に関する明確な戦略的判断基準が提示されていたので、図に示すStep4 のフィルタリングに関する合意は比較的容易になされた。

技術領域に関する考察に限らず、このような重要な外的環境要素には常に大きな不確実性が伴うため、ここでも領域の設定というステップは、常に戦略的外的環境観察のスタートポイントとして位置づけられる。適切な合意形成がなされたあとは、さらにロードマップなどへの展開を図りつつ、観察するべき外的環境の視点を明確化し、組織内でその理由と共に視点を共有し、インテリジェンス・システムを構築したのち観察に移る。現在 NIC は、複数の識者の意見を受けるためにワークショップを開催し、技術領域を特定する作業を行っており、弊社では、今後とも連邦政府の求めに応じて、積極的な関与を図っていきたいと考えている。

この一連の作業は、長期的視点をもって観察するべき技術領域を設定し、その取組みの方向性を戦略的に考察したいと望んでいる組織であれば、汎用的に適用可能である。しかし前述のようにその組織には、競争環境における自社のポジションや、自らの戦略に対する外的要因の影響力に関する客観的な認識が欠かせない。そのような認識を構築するには、このプロセスの前に、複数の未来の可能性に関して考察を行うシナリオプランニング的なアプローチが必要となろう。

(詳しい内容などにご関心をお持ちの方は、お気軽に高内(atakauchi@sric-bi.com)までお問い合せ下さい。)

注1:　NIC(国家情報会議)
US Intelligence Community (IC)は、CIA や陸海空軍などの情報機関が情報を共有し、大統領や国家安全保障会議(NSC)などに対して、外交、国防上の目的に応じた提言を行っている。National Intelligence Council (NIC)は、在野の専門家の意見を十分に採り入れ、バイアスを排除しながら国際的な重要事項につき、特に長期的な観点から独自に調査、分析し戦略的な提言を行う IC の一組織である。大統領、また 9.11 以降その役割を強化された Director of National Intelligence(IC の長)をはじめ、連邦政府各部署に向けてレポートを供給しているが、一部は今回のレポートのように民間にも公開されている。

注2:　本レポートは、http://www.dni.gov/nic/confreports_disruptive_tech.htmlより、どなたでもダウンロードできます。

家庭のCO_2削減に向けて、生活者の行動を変えることはできるのか：Eco Japan

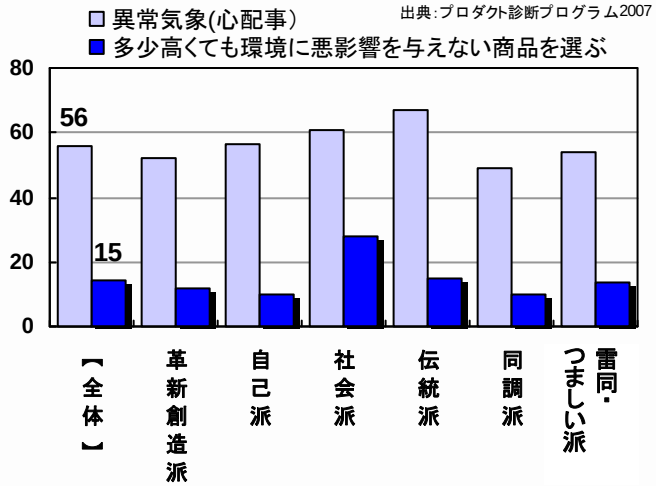
消費者の心理とモチベーションを活用したVALSアプローチ

家庭から排出される CO_2 の削減が一向に進まない。京都議定書で約束したゴールであるマイナス 6%に対して、現時点はプラス 6.4%。中でも、総排出量の 13.5%を占める家庭からの排出量は、30%もの大幅増である。政府、地方自治体は、「家庭ですぐ出来る取り組み」として、冷暖房の設定温度、車のアイドリングストップ、シャワーは 1 分短く、炊飯ジャーで保温しない、家電のコンセントを抜く、等々の細かなアドバイスを行っている。しかし、様々なマイナスを我慢して、どれ位の人が行動に移しているのだろうか。

米国では、人々の「行動」を促すために、マーケティングの手法を持ち込み、事態の打開を図ろうとしている。SRIC-BI は、カリフォルニアの保存局（Dept. of Conservation）、広告代理店 RIESTER とチームを組んで、リサイクル率を上昇させるためのキャンペーンを開発した。その際、カリフォルニアのすべての人に向かってリサイクルの「重要性」を語るのではなく、ターゲットを絞って、そのターゲットが思わず行動したくなるメッセージを開発することをゴールとした。「公共の課題」で「ターゲットを絞る」ことは馴染まないと感じる向きもあるだろう。しかし、すべての人向けのメッセージが機能しないのは、すべての人にピッタリの服が無いのと同様、ビジネスの世界では常識である。

さて、このカリフォルニアのプロジェクトでは、人々の行動の裏にある心理・モチベーションからターゲットを理解する US-VALS™手法を用いた。初めに、各セグメントの環境に対する認識や行動を明らかにし、その上で「仕事に日々忙しいアチーバー（達成を志向する人）」をターゲットとした。アチーバーはしっかり者のアーリーアダプターであるが、リサイクルボックスの利用率が低いことが調査でわかったのである。そこで、プロジェクトチームは「アチーバー」の心理、日々の生活を分析し、広告のコンセプトを開発。VALSの視点でそれを精査し、「忙しいママの癇にさわらない」ラジオ広告を開発し、リサイクル率を高めることに成功した。

翻って日本を眺めるとどうか。政府や地方自治体、あるいは電力・ガス会社が提案する CO_2 削減をお願いするPRは、あまりにも優等生的で万人向けではないだろうか。万人向けであるが故に、「私は関係ない」とスルーされているのではないか。日本における省エネ、リサイクル行動は米国のはるか上を行く。さらなる行動促進のために、何ができるのだろうか。2007 年 10 月に実施した調査結果を見ると、日本人の「心配事」の 1 つとして「異常気象」は、年金、地震、輸入食材の安全性に次いで第 4 位（56%）となった。反面、「多少高くても環境に悪影響を与えない商品を選ぶ」となると、それは 15%と低く、かろうじて実施していると言えるのは「べき論」が通用する社会派のみである。日本全体のムーブメントとするために、今後、誰をターゲットに、いかに説得するのか。生活者の心理を理解して、ターゲットを絞ったアプローチの必要と考える。



SRIC-BIでは、昨年来より米国で実施している環境プロジェクトの知見を活かして、日本人生活者の環境意識と行動を明らかにし、その上で生活者の心理・モチベーションに配慮したアプローチを検討する**<Eco Japan プロジェクト>**を実施する予定です。本プロジェクトをご紹介するラウンドテーブル・ミーティング(下記)を実施いたします。ご関心のある方は是非、お問合せください。

Japan-VALS™セミナーのご案内

SRIC-BI 独自のサイコグラフィック・セグメンテーション VALS™を利用したプロジェクトのご紹介セミナーを開催いたします。ご関心がある方は是非、下記のURLよりお申し込みください。参加費は無料ですが、事前にお申し込みが必要です。

■ラウンドテーブル・ミーティング【VALSを活用した環境問題への取り組み、Eco-Americaの実績】

Eco-Japan プロジェクトは、日本人の心理・モチベーションを捉える **Japan-VALS™**を用いて、生活者の環境問題に対する意識と行動を明らかにし、その上で「生活者の行動を変えさせる」心理的アプローチを検討するプロジェクトです。米国での取り組みと共に、日本でのアプローチをご案内いたします。

＜日時＞ 2008 年 7 月 2 日（水）14:30～17:00 （14:00 開場）
2008 年 7 月 3 日（木） 9:30～12:00 （ 9:00 開場）
＜場所＞ SRI コンサルティング ビジネスインテリジェンス 会議室
東京都千代田区一番町2 パークサイドハウス3F. (半蔵門駅より徒歩 5 分）
＜申し込みURL＞ http://www.tokyo.sric-bi.com/contact/seminar080702.html

■セミナー 【Japan-VALS™活用セミナー プロダクト診断プログラム 2008】

プロダクト診断プログラムは、**Japan-VALS™**と市場調査を組み合わせたコンサルティングプログラムです。毎年 9 月に 1200 サンプルの調査を実施している本プログラムは今年で 11 年目を迎えます。本セミナーでは、日米での VALS™事例をご紹介しながら、VALS™がマーケティング戦略の中で果たす役割とプログラム概要をご案内致します。

＜日時＞ 2008 年 6 月 23 日（月）13:30～16:00 （13:00 開場）
＜場所＞ アルカディア市谷 東京都千代田区九段下 4-2-25 （市ヶ谷駅より徒歩 2 分）
＜申し込みURL＞ http://www.tokyo.sric-bi.com/contact/seminar080623.html

【上記の記事に関するお問い合わせ】

SRI コンサルティング ビジネスインテリジェンス 徳重桃子 電話:03-3222-6505 m@il: mtokushige@sric-bi.com